

# 日本言語技術教育学会事務局通信第 50 号

2023年 3 月 25 日

前事務局長 富樫忠浩

現事務局長 渥美清孝

学会員の皆様に於かれましてはますます御清栄の段、何よりの慶事と心からお喜び申し上げます。今年度も御支援・御協力を賜り深く感謝申し上げます。

さて、今年度、私は常任理事会・理事会において承認を賜り、副会長兼事務局長の大役を仰せつかりました。身に余る光栄でございます。力不足ではございますが、精一杯務めたいと存じます。本学会の目的である「言語技術教育の創造を期し、もって、我が国の国語科教育の改革および発展に貢献すること」に少しでも寄与できますよう、精進してまいります。

前事務局長の富樫忠浩理事におかれましては、平成 30 年から、理事・学会員の皆様と協力し学会を運営しつつ、第 29 回大会（東京・青山大会）の開催、第 30 回クラウド大会の開催等多大な功績を残されました。この間、新型コロナウイルス感染症という大きな困難を乗り越え、新しいスタイルでの研究大会の開催を実現するなど、その御苦勞は並々ならぬものがあつたと存じます。

心から感謝しております。

令和 4 年 3 月 17 日の臨時理事会で渥美が事務局代行としてその任を引継ぐことが承認され、常任理事会、理事会の運営に携わらせていただきました。

常任理事会においては、主に、次期会長候補の選定、本部事務局の選定、令和 5（2023）年の大会開催地候補の選定を議題とし、協議を重ねました。最終的には、柳谷会長の継続が常任理事会の総意として議決され、続く令和 4 年 6 月 21 日の臨時理事会に於いて、柳谷会長の継続が議決されました。また、会長業務の負担が大きいことから、全理事の協力のもと、会長業務の負担軽減を図る組織改善、運営改善を進めることが確認されました。理事の皆様の御協力をお願い申し上げます。

その後、第 31 回大会（栃木・ハイブリッド大会）の開催に向けた準備を進めました。柳谷会長を始め、理事・会員の皆様の御指導・御協力のお蔭様で、大会を開催できました。（詳細は別途御報告申し上げます。）この経験を通して、他では得られない深い学びと感動をいただきました。本当に有難うございました。皆様に衷心から感謝を申し上げます。

引き続き、皆様からの御指導御鞭撻をお願い申し上げます。

日本言語技術教育学会事務局長 渥美清孝 拝

## I 日本言語技術教育学会 会長挨拶 柳谷直明

令和4（2022）年度日本言語技術教育学会第31回栃木・ハイブリッド大会を宇都宮大学にて、山中伸之理事を実行委員長とし、会場校の上原秀一先生の御準備のお蔭様で実にスムーズなハイブリッド開催ができた。参加者は72名と多くなかったが、盛会裏に開催できた。理事、授業者、登壇者、参加者の皆様のお蔭様である。心から、感謝申し上げます。

令和2（2020）年はコロナ禍で研究大会を延期した。コロナ蔓延により、全国的な行動制限となった。令和3（2021）年もコロナ禍の影響ゆえ、対面開催を断念し、クラウド上での授業公開や授業検討を実施した。これは私の発案だったが、オンライン大会の一つの形を示すことができた。クラウド上での授業視聴、発言、質疑応答、討論などができた。

そして、今年はずいぶん対面で実施できた。随分長い時間を経たような気がしたが、3年振りであった。提案された模擬授業、授業検討の討議などオンラインでは味わうのが難しい音声言語の醍醐味を楽しむことができた。懇親会では、参加者の本音が聞けて楽しいときを過ごせた。改めて、実行委員長、会場校担当者、理事、事務局、授業者、登壇者、参加者全員に感謝申し上げます。

大会運営だけでなく、言語技術教育第31号の発行により、研究活動を深めることもできた。編集を担当していただいた照井孝司理事をはじめ、執筆者の皆様、更に溪水社の御協力により、溪水社からPODとして発行でき、アマゾン、三省堂書店オンデマンド、楽天ブックスでの刊行、月刊国語教育研究などでの溪水社による広報を得た。本会普及のために大変有難かった。

さあ、令和5（2023）年度も研究活動を深めよう。令和5（2023）年7月1日に静岡常葉大学にて第32回静岡・ハイブリッド大会開催が決まった。中村孝一副会長が大会実行委員長をお引き受けくださった。文部科学省の後援が決定し、こくち一で募集を開始した。また、言語技術教育第32号の執筆依頼は11月15日に済ませ、2月末締め切りで編集を進めている。

本事務局通信第50号は副会長兼事務局長の渥美清孝理事に編集してもらった。岩下修副会長の退任に伴い、渥美清孝副会長と今井東副会長が選任された。岩下修副会長には、3年間大変にお世話になった。今後も理事としての御協力を期待している。渥美清孝副会長には大きな負担をかける結果となっている。全会員の御協力を願いたい。

本会の発展は国語科教育の改善に加え、日本国民の言語運用能力向上にも貢献する。来年度も一人でも多くの大会参加者とともに学び合いたい。加えて、令和6（2024）年度大会開催校を引き続き募っている。是非、立候補願いたい。

それでは皆様、令和5（2023）年度も更なる飛躍・大活躍の年にしていこう。

## II 日本言語技術教育学会第31回大会（栃木・ハイブリッド大会）報告

### 1 大会テーマなど

大会テーマ 言語技術が見える授業づくり—『聞き上手になろう 質問で相手の思いに迫る』『図や表を活用して書く作文指導』『メディアと人間社会』『走れメロス』で身につけさせる言語技術—

【期 日】令和4（2022）年7月2日（土）9：55～17：15

【後 援】文部科学省、栃木県教育委員会

【会 場】宇都宮大学共同教育学部

[〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町 350]

## 2 日程

9 : 30 受付開始 座席指定なし・先着順

9 : 50 開場・諸連絡・進行 富樫忠浩（事務局長）

9 : 55 開会挨拶 柳谷直明（会長）

### 第1部 提案授業

10 : 00～10 : 25 (25分) 模擬授業1 『聞き上手になろう 質問で相手の思いに迫る』(中3)

授業者 渥美清孝（弟子屈町立和琴小学校）

10 : 30～10 : 55 (25分) 模擬授業2 『図や表を活用して書く作文指導』(小学校高学年)

授業者 京野真樹（秋田大学教育文化学部附属小学校）

11 : 05～11 : 30 (25分) 模擬授業3 『メディアと人間社会』(小6)

授業者 渡辺真由美（越谷市立武蔵野中学校）

11 : 35～12 : 00 (25分) 模擬授業4 『走れメロス』(中2)

授業者 平河 力（柳川市立大和中学校）

12 : 00 諸連絡（昼食場所・総会案内等）

12 : 10 昼休み・理事会（8 A23 教室）

13 : 00 学会総会（事業・会計報告，事業・予算案等）

### 第2部 提案授業の検討

13 : 30～14 : 20 (50分) 検討1 話すこと・聞くこと

指定討論者・司会 篠原京子（東京未来大学）

提案者 渥美清孝（弟子屈町立和琴小学校）

指定討論者 高木輝夫（ひたちなか市立勝倉小学校）

松澤正仁（元愛媛県公立小学校）

柳谷直明（芦別市立啓成中学校）

佐藤洋一（名古屋学芸大学）

14 : 25～15 : 15 (50分) 検討2 書くこと（作文）

指定討論者・司会 大内善一（茨城大学名誉教授）

提案者 京野真樹（秋田大学教育文化学部附属小学校）

指定討論者 安 暁彦（茨城大学教育学部附属中学校）

池田尚子（中央大学杉並高等学校）

増田 泉（常葉大学）

國府田祐子（淑徳大学）

15 : 25～16 : 15 (50分) 検討3 読むこと（説明文）

指定討論者・司会 中村孝一（常葉大学）

提案者 渡辺真由美（越谷市立武蔵野中学校）

指定討論者 照井孝司（元岩手県公立小学校）

上原秀一（宇都宮大学）

長谷川祥子（青山学院大学）

鶴田清司（都留文科大学）

16 : 20～17 : 10 (50分) 検討4 読むこと（文学）

指定討論者・司会 今井 東 (元太田市立太田中学校)  
提案者 平河 力 (柳川市立大和中学校)  
指定討論者 山中伸之 (東京未来大学)  
西山悦子 (台東区立東泉小学校)  
富樫忠浩 (夕張市立ゆうばり小学校)  
野口芳宏 (植草学園大学名誉教授)

17:10 閉会挨拶 中村孝一 (副会長)  
17:15 諸連絡, 懇親会案内他  
17:30~19:30 懇親会 (宇都宮大学学生会館)

### 3 第31回総会

大会の中で総会がありました。会則第8条②会長代行 (副会長) の定数を2名から3名に改正したことを受け、空席となった【会長代行, 副会長】には神田支部からの推薦をいただくこととしました。総会時に承認された役員, 決算報告, 予算案を掲載します。

#### (1) 2023年度学会役員

【会長, 代表理事】 柳谷直明

【会長代行, 副会長】 中村孝一

【会長代行, 副会長】 渥美清孝

【会長代行, 副会長】 神田支部からの推薦

【常任理事】

・柳谷直明 ・中村孝一 ・渥美清孝 ・野口芳宏 ・大内善一

【理事】 (五十音順)

・渥美清孝 ・井上善弘 ・今井 東 ・岩崎 淳 ・岩下 修  
・大内善一 ・大貫眞弘 ・小川智勢子 ・開田晃央 ・木山麻衣子  
・京野真樹 ・國府田祐子 ・小森 茂 ・佐藤洋一 ・篠原京子  
・高木輝夫 ・高橋 勲 ・高橋秀一 ・鶴田清司 ・照井孝司  
・富樫いずみ ・富樫忠浩 ・中村孝一 ・中村麻里那 ・西山悦子  
・野口芳宏 ・長谷川祥子 ・平河 力 ・兵藤伸彦 ・増田 泉  
・松澤正仁 ・望月善次 ・安 暁彦 ・柳谷直明 ・山中伸之  
・吉川和良 ・渡邊靖之 (計37名)

【監事】 ・中村麻里那 (茨城支部) ※理事と兼任 ・渡辺真由美 (神田支部)

【事務局長】 ・渥美清孝 ※副会長と兼任

#### (2) 決算報告

令和4 (2022) 年7月2日 (土)

日本言語技術教育学会 令和4 (2022) 年 決算報告

言語技術教育学会事務局長 富樫忠浩  
(学会会計 富樫いずみ)

「令和4 (2022) 年度」は, 第30回クラウド大会当日令和3 (2021) 年7月4日から翌令和4 (2022)

年第31回大会前日7月1日までです。今回の決算には、第30回クラウド大会の参加費、経費等が含まれています。そのかわり、第31回大会の参加費、経費等は除いてあります。第31回大会参加費、経費等は令和5（2023）年度決算に組み入れます。

<b>I 収入</b>	<b><u>2, 449, 287円</u></b>
(1) 前年度よりの繰越金	2, 206, 141円
(2) 第30回クラウド大会参加費	159, 000円
①3,000円（会員） ×49人=144,000円	
②4,000円（非会員） × 3人= 12,000円	
③3,000円（視聴のみ） × 1人= 3,000円	
(3) 新規会員会費	9, 000円
①3,000円（入会金） × 3人= 9,000円	
(4) 過去紀要販売費	75, 100円
(5) 利息	46円
<b>II 支出</b>	<b><u>208, 760円</u></b>
(1) 研究大会事務局費	129, 496円
①消耗品費	10,450円
②印刷・製本費	119,046円
(2) 本部事務局費	79, 264円
①消耗品費（HP維持費）	17,182円
②印刷費（印刷機, インク）	35,866円
③運搬費（紀要発送など）	18,086円
④茶菓費（役員会旅費など）	8,130円
<b>III 繰越金</b>	<b><u>2, 240, 527円</u></b>
I収入：2,449,487円－II支出：208,760円＝繰越金：2,240,527円	

(3) 予算案

令和4（2022）年7月2日（土）

日本言語技術教育学会 令和5（2023）年度 予算案

日本言語技術教育学会事務局長 富樫忠浩  
（学会会計 富樫いずみ）

令和5（2023）年度は第31回栃木大会当日令和4（2022）年7月2日から来年度第32回大会の前日までです。今回の予算には、第31回栃木大会の参加費、経費等が含まれています。そのかわりに第32回大会の参加費、経費等は除いてあります。第32回大会参加費、経費等は来年度令和5（2023）年度の予算に組み入れます。

<b>I 収入</b>	<b><u>2, 865, 537円</u></b>
(1) 前年度よりの繰越金	2, 240, 527円

(2) 第31回栃木・ハイブリッド大会参加費	565,000円
①4,000円(会員事前) ×60人=240,000円	
②4,500円(非会員事前) ×30人=135,000円	
③4,500円(会員当日) ×20人=90,000円	
④5,000円(非会員当日) ×20人=100,000円	
(3) 新規会員会費	30,000円
①3,000円(入会金) ×10人=30,000円	
(4) 過去紀要販売費	30,000円
(5) 利息	10円
<b>II 支出</b>	<b><u>2,865,537円</u></b>
(1) 研究大会事務局費	450,000円
①消耗品費	10,000円
②印刷・製本費	350,000円
③会場使用費	40,000円
④通信費	10,000円
⑤茶菓費	40,000円
(2) 本部事務局費	2,415,537円
①印刷費	7,000円
②予備費	2,408,537円

#### 4 『言語技術教育31』内容

はじめに	柳谷直明
一 特集 私が主張する「言語技術教育論」	
◆ 研究者と実践者が共有する「研究論文執筆のための言語技術」試論	柳谷直明
◆ 言語技術教育からみた生きたことば、死んだことば	大内善一
◆ 国語教育は「言語技術教育」と考え、その振興をこそ	野口芳宏
◆ 国語科固有の「見方・考え方」と言語技術教育	鶴田清司
◆ 言語技術を「方」と「学習用語」で捉え、系統的に指導する	中村孝一
◆ 論理的文章を「書く」ために、教科書教材を「読む」授業の提案	長谷川祥子
◆ 言語技術を駆使できる学習過程の構築	岩下 修
二 授業一 「話すこと・聞くこと」領域での言語技術指導	
一 『聞き上手になろう 質問で相手の思いに迫る』(光村中三) 一	
◆ 引用を用いた質問の技術を身に付けさせる指導～中学三年国語科学習指導案～	渥美清孝
◆ 引用を用いた質問の技術を身に付けさせる	渥美清孝
◆ 基礎学習(国語科)と実践学習(他教科等)で言語技術の向上を図る	篠原京子
◆ 「質問で相手の思いに迫る」ために	高木輝夫
◆ 目指すべき「聞き上手」とは何か	松澤正仁
◆ なぜ「聞き上手」「質問で相手の思いに迫る」のか—資質・能力育成へ—	佐藤洋一

◆ 【話すこと・聞くこと】領域での言語技術とその指導法	太田 等
◆ 言語技術を価値付ける教師の対応の技術	大淵康孝
◆ 一人一端末を活用する	川又智子
◆ インタビューで相手の思いや考えを引き出すには	斉藤美智子
◆ 信頼性を担保して質問するための言語技術	安 暁彦
◆ 「合意形成」に必要な言語技術（帰納論理と演繹論理）	井上敬夫
◆ 螺旋的・反復的な学習で言語技術を高める	高橋秀一
三 授業二 「書くこと（作文）」領域での言語技術指導	
— 図や表を活用して書く作文指導（小五） —	
◆ 図や表を活用して書く～小学五年国語科学習指導案～	京野真樹
◆ 図や表の解釈と表現の関係を意識付ける	京野真樹
◆ 非連続型テキストの妥当性を吟味し論述する	大内善一
◆ グラフや表から「問い」を立てる	池田尚子
◆ 非連続型テキストを用いて書く言語技術	増田 泉
◆ 非連続型テキストを根拠とした語彙選択や表現の指導	開田晃央
◆ 図や表の活用は応用的な書き方指導である	國府田祐子
◆ 各教科等の言語活動を充実させるための言語技術抽出法研究	柳谷直明
◆ 統計資料を引用して論理的に書く力をつける指導	小川智勢子
◆ 言語技術を明確化した授業づくり（教材研究）	坂本 要
◆ 情報を文章化する言語技術	井上善弘
◆ グラフや表を使った作文を論理作文の構成で書かせる	伊藤孝之
◆ データを詳細に、考察を簡潔に書く技術を学ぶ	西山明人
◆ 「グラフや表を用いて書こう」（光村小五）の教材検討	大貫眞弘
四 授業三 「読むこと」（説明的文章）領域での言語技術指導	
— 『メディアと人間社会』（光村小六） —	
◆ 論理的に「書くこと」の手本にするために「読む」～小学六年国語科学習指導案～	渡辺真由美
◆ 論理的に「書くこと」の手本にするために「読む」	渡辺真由美
◆ 教材文の是非を授業にどう生かすのか	照井孝司
◆ わかったつもりにさせるな	上原秀一
◆ 「メディアと人間社会」は論理的文章を「書く」ために適した教材	長谷川祥子
◆ 「メディアと人間社会」（池上彰）の授業構想—「根拠・理由・主張の三点セット」を使って—	鶴田清司
◆ シンプルな読み方の指導を繰り返し行う	田邊 泰
◆ 「読む」指導から、「なか」の内容を豊かにする文章力をつける指導へ	小泉尚子
◆ 教科書という「メディア」を読み解く言語技術	塚田直樹
◆ 論理的文章の読み書きの力がつく授業を期待する	大木真智子
◆ 教材の「見方・考え方」を生かし質の高い深い授業をつくる	有田弘樹
◆ 三つの視点から読む「メディアと人間社会」	左近妙子
◆ 論説文の典型モデルを見つける作業に	岩下 修

## 五 授業四 「読むこと」(文学的文章)領域での言語技術指導

—教材名『走れメロス』(中二)—

◆ 文学的文章「走れメロス」を読む～中学二年国語科学習指導案	平河 力
◆ 「読むこと」(文学的文章)領域での言語技術指導	平河 力
◆ 「描写」と「人物像の変化」を読み味わわせるための言語技術を	今井 東
◆ 文章中からいろいろなパッケージを読み取る力を育てる	山中伸之
◆ 文学的文章の指導では、言語技術四項目を教える	西山悦子
◆ よりよい生き方に貢献する言技技術指導	富樫忠浩
◆ 文学作品「走れメロス」で教えるべき「言語技術」私案	野口芳宏
◆ 文学的文章を読む言語技術 あらすじの名付け・登場人物の変化・描写の読み方	瀧沢葉子
◆ 小学校で学んだことを活用する場を—系統的・段階的・螺旋的・反復的な指導—	徳山大輔
◆ 「読むこと」(文学的文章)領域での言語技術指導とは何か	駒井康弘
◆ 「語り手の位置」と「特徴的な表現」から読みを深める	中村麻里那
◆ 描写の効果を読み取る	藤原かおり
◆ 生涯を通じて小説を楽しめる言語技術を指導する	岩井信康
◆ 「走れメロス」で朗読指導を	神部秀一
◆ 「走れメロス」の学習指導	岩崎 淳
六 第三〇回クラウド大会の報告	柳谷直明
編集後記	照井孝司

## Ⅲ 令和5(2023)年度理事会(令和4年9月4日開催)

### 1 2023年度学会役員

総会で承認された会長代行(副会長)の定数増について、神田支部からの推薦をいただきました。

【会長, 代表理事】 柳谷直明

【会長代行, 副会長】 中村孝一

【会長代行, 副会長】 今井 東

【会長代行, 副会長】 渥美清孝

【常任理事】

・柳谷直明 ・中村孝一 ・今井 東 ・渥美清孝 ・野口芳宏 ・大内善一

【理事】(五十音順)

・渥美清孝 ・井上善弘 ・今井 東 ・岩崎 淳 ・岩下 修  
・大内善一 ・大貫眞弘 ・小川智勢子 ・開田晃央 ・木山麻衣子  
・京野真樹 ・國府田祐子 ・小森 茂 ・佐藤洋一 ・篠原京子  
・高木輝夫 ・高橋 勲 ・高橋秀一 ・鶴田清司 ・照井孝司  
・富樫いずみ ・富樫忠浩 ・中村孝一 ・中村麻里那 ・西山悦子  
・野口芳宏 ・長谷川祥子 ・平河 力 ・兵藤伸彦 ・増田 泉  
・松澤正仁 ・望月善次 ・安 暁彦 ・柳谷直明 ・山中伸之  
・吉川和良 ・渡邊靖之 (計37名)

【監事】 ・中村麻里那(茨城支部) ※理事と兼任 ・渡辺真由美(神田支部)

【事務局長】 ・渥美清孝 ※副会長と兼任

## 2 決算報告・予算案

学会の会計年度の改正による新しい会計年度による決算報告と予算案が承認されましたので掲載します。

### (1) 決算報告

令和4（2022）年9月4日（日）

令和4（2022）年度大会収支を含む令和5（2023）年度 決算報告  
日本語技術教育学会事務局長 渥美清孝

令和4（2022）年度大会収支を含む令和5（2023）年度は、令和3（2021）年9月5日理事会当日から令和4（2022）年9月4日理事会前日までとします。今回の決算には、第31回栃木大会の参加費、経費等が含まれています。第32回静岡大会の参加費、経費等は除いてあります。第32回静岡大会参加費、経費等は「令和5年（2023）度大会収支を含む令和5（2023）年度予算」に組み入れます。

<b>I 収入</b>	<b><u>2, 543, 846円</u></b>
(1) 前年度よりの繰越金	2, 240, 527円
(2) 第31回栃木・ハイブリッド大会参加費	288, 500円
①4,000円（会員事前） ×35人=140,000円	
②4,500円（非会員事前） × 8人= 36,000円	
③2,000円（学生事前） × 3人= 6,000円	
④4,500円（会員当日, リモート） × 7人=31,500円	
⑤5,000円（非会員当日, リモート） ×11人=55,000円	
⑥2,500円（学生当日, リモート） × 8人=20,000円	
(3) 新規会員会費	3, 000円
①3,000円（入会金） × 1人= 3,000円	
(4) 過去紀要販売費	11, 800円
(5) 利息	19円
<b>II 支出</b>	<b><u>488, 186円</u></b>
(1) 研究大会事務局費	171, 911円
①消耗品費	60,839円
②印刷・製本費	14,900円
③会場使用費	41,052円
④通信費	12,192円
⑤運搬費	12,928円
⑦茶菓費	30,000円
(2) 本部事務局費	316, 275円
①消耗品費（HP維持費）	16,073円

- ②印刷費(溪水社への支払い) 298,120 円
- ③通信費(メール便発送など) 2,082 円

**Ⅲ 繰越金 2,055,660円**

I 収入 : 2,543,846 円 - II 支出 : 488,186 円 = 繰越金 : 2,055,660 円

(2) 予算案

令和4(2022)年9月4日(日)

令和5(2023)年度大会収支を含む令和5(2023)年度 予算案

日本言語技術教育学会事務局長 渥美清孝

令和5(2023)年度大会収支を含む令和5(2023)年度は令和4(2022)年9月4日理事会当日から令和5(2023)年第32回静岡大会後理事会前日までです。今回の予算には、第32回静岡大会の参加費、経費等が含まれています。第33回大会参加費、経費等は来年度令和6(2024)年度の予算に組み入れます。

**I 収入 2,735,670円**

- (1) 前年度よりの繰越金 2,055,660円
- (2) 第32回静岡・ハイブリッド大会参加費 620,000円
  - ①4,000円(会員事前) × 40人 = 240,000円
  - ②4,500円(非会員事前) × 30人 = 135,000円
  - ③2,500円(学生事前) × 10人 = 25,000円
  - ④4,500円(会員当日, リモート) × 20人 = 90,000円
  - ⑤5,000円(非会員当日, リモート) × 20人 = 100,000円
  - ⑥3,000円(学生当日, リモート) × 10人 = 30,000円
- (3) 新規会員会費 30,000円
  - ①3,000円(入会金) × 10人 = 30,000円
- (4) 過去紀要販売費 30,000円
- (5) 利息 10円

**II 支出 2,735,670円**

- (1) 研究大会事務局費 200,000円
  - ①消耗品費 30,000円
  - ②印刷・製本費 50,000円
  - ③会場使用費 30,000円
  - ④通信費 30,000円
  - ⑤茶菓費 40,000円
  - ⑥報償費 20,000円
- (2) 本部事務局費 2,535,670円
  - ①消耗品費(HP維持費) 10,000円
  - ②印刷費(溪水社への支払い) 25,000円

③会場費（使用料）	10,000 円
④通信費（メール便発送など）	10,000 円
⑤運搬費（宅急便代など）	20,000 円
⑥予備費	2,235,670 円

## IV 日本言語技術教育学会第 32 回大会（静岡・ハイブリッド大会）

### 1 大会テーマなど

テーマ 言語技術が見える授業づくり—『他者の発言に心傾けて』『根拠を明確にして意見・感想を述べる』『笑うから楽しい』『高浜虚子の俳句を読み味わおう』で身に付けさせる言語技術—

【期 日】 令和 5 (2023) 年 7 月 1 日（土）

【後 援】 文部科学省，静岡県教育委員会

【会 場】 常葉大学 静岡草薙<sup>くさなぎ</sup>キャンパス A201 教室

[〒422-8581 静岡県静岡市駿河区弥生町 6-1]

### 2 日程

9：30 受付開始 座席指定なし・先着順・隣空ける

9：50 実行委員長挨拶 中村孝一（副会長）

連絡 渥美 清孝（事務局長）

9：55 開会挨拶 柳谷直明（会長）

#### 第 1 部 提案授業

10：00～10：25(25分) 模擬授業 1 『他者の発言に心傾けて』 小 6

授業者 中村麻里那（茨城大学教育学部附属中学校）

10：30～10：55 (25分) 模擬授 2 『根拠を明確にして意見・感想を述べる』 中 1

授業者 西山明人 東京農業大学第三高等学校附属中学校

11：05～11：30 (25分) 模擬授業 3 『笑うから楽しい』 小 6

授業者 安 暁彦（茨城大学教育学部附属中学校）

11：35～12：00 (25分) 模擬授業 4 『高浜虚子の俳句を読み味わおう』 小学高学年

授業者 野口芳宏（植草学園大学名誉教授）

12：00 諸連絡 昼食場所・総会案内等

12：10 昼休み・理事会〇〇教室

13：00 学会総会 事業・会計報告 事業・予算案等

#### 第 2 部 提案授業の検討

13：30～14：20 (50分) 検討 1 話すこと・聞くこと

指定討論者・司会 大内善一（茨城大学名誉教授）

提案者 中村麻里那（茨城大学教育学部附属中学校）

指定討論者 西山悦子（台東区立東泉小学校）

篠原京子（東京未来大学）

渥美清孝（弟子屈町立和琴小学校）

國府田祐子（淑徳大学）

14：25～15：50（50分）検討2 書くこと 作文

指定討論者・司会 京野真樹（秋田大学教育文化学部附属小学校）

提案者 西山明人（東京農業大学第三高等学校附属中学校）

指定討論者 小川智勢子（三郷市立吹上小学校）

増田 泉（常葉大学）

高木輝夫（ひたちなか市立勝倉小学校）

今井 東（元太田市立太田中学校）

15：25～16：15（50分）検討3 読むこと 説明文

指定討論者・司会 開田晃央（大洗町立大洗小学校）

提案者 安 暁彦（茨城大学教育学部附属中学校）

指定討論者 照井孝司（元岩手県公立小学校）

上原秀一（宇都宮大学）

井上善弘（国士舘大学）

中村孝一（常葉大学）

16：20～17：10（50分）検討4 読むこと 文学

指定討論者・司会 富樫忠浩（夕張市立ゆうばり小学校）

提案者 野口芳宏（植草学園大学名誉教授）

指定討論者 山中伸之（栃木市立大平西小学校）

長谷川祥子（青山学院大学）

柳谷直明（芦別市立啓成中学校）

佐藤洋一（名古屋学芸大学）

17：15 閉会挨拶 今井 東（副会長）

17：15 諸連絡、懇親会（検討中）案内他

### 3 参加費

■事前入金（6月23日入金まで有効）

会員 4,000円 非会員 4,500円 学生 2,000円

■当日入金・オンライン参加

会員 4,500円 非会員 5,000円 学生 2,500円 資料他込み

■懇親会 事前のみ 5,000円

### 4 大会申し込み方法

(1) 大会名をネットで検索し「こくちーず」で申込みます。次に、下記ゆうちょ銀行口座への入金をお願いします。

(2) ①ゆうちょ銀行からの入金「振替口座記号番号 02710-1-51406／口座名称 渥美清孝(アツミキヨタカ)」

②ゆうちょ銀行以外からの入金「店名(店番) 二七九(ニナナキュウ) 店(279)／預金種目 当座／口座番号 0051406」

(3) 入金後 入金告知 氏名 勤務先 Eメールアドレス 総会と懇親会の参加の有無を下記事務局へ

メールします。

(4) 「こくち一ず」以外の申込み問合せ先は下記。

第32回大会実行委員会受付担当：渥美清孝 E-mail [k8m8y2@gmail.com](mailto:k8m8y2@gmail.com)

5 令和6年度 第1回第理事会

日 時 2023年7月1日(土) 12:10~12:50

場 所 常葉大学〇〇教室

※ 御欠席される理事の方は議事の審議・承認について、議長に御一任いただきますよう、よろしくお願いいたします。

## V 学会紀要について

紀要第1号~第21号は明治図書から、第31号は溪水社から刊行されております。

- 『言語技術教育 第1号』特集 言語技術教育でどんな力がつくか (1580円)
- 『言語技術教育 第2号』特集 言語技術教育の観点から新教科書を点検する (1794円)
- 『言語技術教育 第3号』特集 言語技術教育としての『話し方・聞き方』指導を構想する (1794円)
- 『言語技術教育 第4号』特集 この文学教材でこの言語技術を教える (2314円)
- 『言語技術教育 第5号』特集 説明的文章を使ってどんな言語技術教育を身につけさせるか (1682円)
- 『言語技術教育 第6号』特集 論理的思考力を鍛える作文技術 (1995円)
- 『言語技術教育 第7号』特集 討論の授業がどんな言語技術教育を身につけさせるか (1890円)
- 『言語技術教育 第8号』特集 音声言語指導の教材開発・授業開発 (2058円)
- 『言語技術教育 第9号』特集 総合的学習を支える言語技術とは何か (2205円)
- 『言語技術教育 第10号』特集 総合的学習と「読み・書き」の技術 (2058円)
- 『言語技術教育 第11号』特集 到達度・絶対評価の基準としての言語技術 (1953円)
- 『言語技術教育 第12号』特集 「絶対評価」で問われる基礎学力と結果責任 (1995円)
- 『言語技術教育 第13号』特集 二十一世紀に求められる言語技術とは何か (1760円)
- 『言語技術教育 第14号』特集 「この言語技術」を「この授業」で身につける (1890円)
- 『言語技術教育 第15号』特集 「読解力の低下」問題と国語科授業の改革 (1953円)
- 『言語技術教育 第16号』特集 国語学力を育てる言語技術教育 (1953円)
- 『言語技術教育 第17号』特集 論理的な「言語力」を育てる国語科の授業 (1953円)
- 『言語技術教育 第18号』特集 「伝統的な言語文化」を活かす言語技術 (1680円)
- 『言語技術教育 第19号』特集 「伝統的な言語文化」を深める授業力とは (1890円)
- 『言語技術教育 第20号』特集 「この言語技術」で思考力・表現力が高まる (1953円)
- 『言語技術教育 第21号』特集 新教材・伝統的な言語文化をどう授業化するか (1890円)
- 『言語技術教育 第22号』特集 単元を貫く言語技術を解明する (1890円)
- 『言語技術教育 第23号』特集 言語技術が見える授業づくり—学力向上に役立つ言語技術— (500円)
- 『言語技術教育 第24号』特集 「文学教材の授業で身につけさせる言語技術」とは何か—「ごんぎつね」を例に— (500円)
- 『言語技術教育 第25号』特集 言語技術が見える授業づくり—「大造じいさんとがん」「和の文化を受けつぐ—和菓子やさぐる—」で身につけさせる言語技術— (500円)

『言語技術教育 第26号』特集 言語技術が見える授業づくり―「ごんぎつね」「天気を予想する」で身につけさせる言語技術― (500円)

『言語技術教育 第27号』特集 言語技術が見える授業づくり―「スイミー」「すがたをかえる大豆」「短歌」で身につけさせる言語技術― (500円)

『言語技術教育 第28号』特集 言語技術が見える授業づくり―「リクエスト給食のメニューを決めよう(話す・聞く)」「新商品のよさを伝えよう(書く)」説明文「未来に生かす自然のエネルギー」文学「海のいのち」で身につけさせる言語技術― (500円)

『言語技術教育 第29号』特集 言語技術が見える授業づくり―「論理的に読む学習」「すがたをかえる大豆」「天気を予想する」「ふきのとう」で身につけさせる言語技術― (1000円)

『言語技術教育 第30号』特集 言語技術が見える授業づくり―「反論を先取りして主張する」「動物たちが教えてくれる海の中のくらし」「一つの花」「話し方」で身につけさせる言語技術 (1000円)

『言語技術教育 31号』特集 言語技術が見える授業づくり―「聞き上手になろう 質問で相手の思いに迫る」「図や表を活用して書く作文指導」「メディアと人間社会」「走れメロス」で身につけさせる言語技術― (2090円)

## VI 新規会員の申し込みについて

本学会は研究者と実践者が意見交換できる貴重な場です。また、言語技術教育の解明、普及のために提案を続けています。この価値ある場へお誘いください。会の普及に御協力ください。

- ①下記の口座へ入会金3,000円を入金。(年会費無料)
- ②Eメールで事務局(渥美 mail:k8m8y2@gmail.com)へ住所、氏名、勤務先を連絡。
- ③事務局からの返信メールの受信。(3日以内に返信がない場合、再度メールを送信ください。)

◎入会金の入金先

- ・ゆうちょ銀行「記号19700/番号16017741 ニホンゲンゴギジュツキョウイクガツカイ」
- ・ゆうちょ銀行他金融機関「店名九七八/店番978/預金種目普通預金/1601774」

※ 学会会場の受付でも入会手続きが可能です。

## VII 学会ホームページ

学会のホームページアドレスは以下の通りです。

日本言語技術教育学会ホームページ <http://tankokuken.html.xdomain.jp/nihongengo/index.htm>